

## 研究協力のお願

昭和大学病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

全身麻酔中の肺リクルートメント手技による循環変動予測因子の検討

### 1. 研究の対象および研究対象期間

2014年8月から2019年8月までに当院でロボット支援下腹腔鏡下前立腺全摘術を受けられ、EITを用いた研究にご協力いただいた方

### 2. 研究目的・方法

本研究は、受付番号1627「下腹部腹腔鏡下手術中の人工呼吸が肺機能に及ぼす影響（研究者：尾頭 希代子）」のデータを用いた後方視的研究です。

全身麻酔下で手術を受ける患者には人工呼吸管理が必要となります。人工呼吸時には背側肺が無気肺となり換気分布が不均等となるため、血流分布とのミスマッチが生じ、肺酸素化能が低下します。換気分布を改善させるには、気道に陽圧を一定時間持続的に付加し、虚脱した肺を再膨張させるリクルートメント手技（Recruitment maneuver: RM）を行ったり、呼気終末に陽圧（Positive end-expiratory pressure: PEEP）を付加したりすることが有効とされています。一方で、胸腔内圧の上昇や静脈還流量の減少により低血圧や徐脈など、循環動態への悪影響が生じうることも知られています。

先の前向き研究では、下腹部腹腔鏡下手術を受ける患者さんにおいて、最適な人工呼吸法（PEEP および RM の方法）を明らかにする目的で PEEP のみを付加する群、RM を施行してから PEEP を付加する群に無作為割付し、肺機能や循環動態の推移を比較検討することを目的としました。

本研究では、先の前向き研究で得られた RM 前後の循環動態の推移に着目し、RM による血圧、心拍数、心拍出量の変化の調査、またそれらを予測しうる因子（BMI、RM 前の血圧、心拍数など）の検討を行います。また、手術中および抜管後の血液ガスデータ、呼吸機能パラメータなどを利用し、RM による酸素化能や呼吸機能の変化の検討を行います。

### 研究期間

医学研究科 人を対象とする研究等に関する倫理委員会」承認後、昭和大学病院 病院長の研究実施許可

を得てから 2022 年 3 月まで

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

年齢・性別・身長・体重・BMI、気腹の有無、RM 前後の血圧・心拍数・一回拍出量・一回拍出量変化・心係数のデータを用いる。

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学病院（医学部麻酔科学講座） 氏名：加島 有紀

住所：142-8555 東京都品川区旗の台 1-5-8 電話番号：03-3784-8575

研究責任者：

昭和大学医学部麻酔科学講座（昭和大学病院） 助教 加島 有紀